

北秋田市地域おこし協力隊 コラム Vol.2

みなさま、もう山菜採りには行かれたでしょうか？私は、初めての「ぜんまい採り」を体験しました。林の中を歩いて探す、それだけでも一苦労なのに、家に帰って綿を取る、湯がく、天日干しする、何度も揉んで乾燥を繰り返し、やっと出来上がり。今までは、ただ買っていたものがこんなに大変な手間暇がかかっていたことに初めて気づきました。

昔から、北秋田市では家族のための美味しいおかずがこうやって出来てきたんですね。漬物や塩蔵文化などの昔から続くお母さんの料理はやっぱりすごいものだと思えます。どんどん忘れ去られてしまう、作れる人が少なくなっている今、どうにかつなげていきたいですね。

果たして、私には何ができるのでしょうか？

※山菜採りのマナーは守りましょう。

※似たような植物を採ってしまう悲しい事故も起きています。きちんと勉強して、気をつけましょう。

▽次の情報を随時募集中です！（自薦・他薦問わず）

- 郷土料理・田舎料理の達人 ●がっこ名人
- 自慢の農産物 ●山菜採り名人
- 集落で腕利きなおじいちゃん・おばあちゃん
- 提供可能な空家、農地の情報 ●農機具貸出し



ぜんまい採り体験

【連絡先】 〒018-4301 北秋田市米内沢字七曲23 北秋田市地域おこし協力隊 九島 千春 ☎72-5243

市長ダイアリー

◇4月16日～5月15日

- 4月16日(土) ▽秋田犬ツーリズムキックオフシンポジウム(大館市)
- 17日(日) ▽秋田市新庁舎完成記念式典(秋田市)
- 18日(月) ▽平成28年度北秋田市廃棄物不法投棄監視員委嘱状交付式(本庁舎)
- 21日(木) ▽職業訓練法人北秋田職業訓練協会平成27年度修了式及び平成28年度入校式(中央公民館)
- 22日(金) ▽定例記者会見(本庁舎)▽第166回秋田県市長会定例会(鹿角市)
- 23日(土) ▽第54回河田杯マラソン・大館北秋田ロードレース大会開会式(中央公民館)▽北秋田市伊勢堂岱縄文館竣工式(同館)
- 25日(月) ▽(仮称)米代川大規模氾濫に関する減災対策協議会(能代市)▽あきた創生アドバイザリーボード秋田創生シンポジウム(秋田市)
- 26日(火) ▽平成28年度北秋田市農業再生協議会(本庁舎)
- 27日(水) ▽平成28年度秋田県道協議会通常総会(秋田市)
- 28日(木) ▽第5回B.M.1グランプリ(クウインズ森吉)▽鷹巣町役場職員OB友の会平成28年度総会(ホテル松鶴)
- 29日(金) ▽さくらまつり「桜を観る会」(中央公民館)
- 30日(土) ▽北秋田市民ふれあいプラザコムコムオープンテークカット／オープン記念式典／高橋克典ステージトーク(同所)
- 5月6日(金) ▽百歳を迎える長寿者高坂タミ氏への祝状等贈呈(高坂氏宅)
- 9日(月) ▽鷹巣婦人会平成28年度総会(市民ふれあいプラザコムコム)▽チャレンジデーメール交換(本庁舎)
- 10日(火) ▽平成28年度東北国道協議会総会(福島市)
- 11日(水) ▽秋田県行政改革推進委員会(秋田市)
- 12日(木) ▽北秋田市下水道事業運営審議委員会 藤本忠委員長答申書提出(本庁舎)▽北秋田地区更生保護女性の会平成28年度総会(市民ふれあいプラザコムコム)
- 13日(金) ▽佐藤正俊氏教育委員任命書交付(本庁舎)▽平成28年度森吉山野生鳥獣センター運営協議会総会(四季美館)▽「森吉会ふるさと視察の旅」北秋田市長を囲む懇親会(あゆっこ)

故郷のためにできることを

森吉会と地元有識者との懇談会



▲故郷のためにできることを考えた森吉会と地元有識者との懇談会

森吉地区出身の首都圏在住者を中心に組織されている「森吉会」(松岡啓司会長)の会員と地元有識者との懇談会が、5月14日に森吉コミュニティセンターで開催されました。懇談会は、森吉会の会員14人が「ふるさと視察の旅」として里帰りをすることに促して「移住定住促進」をテーマに、市や地元在住者と意見交換を行い、今後の施策に反映させようとするものでした。

はじめに、石川博志総務部長が「年々人口減少が進んでおり、市としても最重要課題ととらえて、人口流出に歯止めをかけよう」と取り組んでいる。課題解決に向けて意見を聞かせてほしい」とあいさつ。続いて、松岡会長が「ふるさととは、遠きにおいて思うものと過剰に思っているが、今回はふるさとで思い考えるということ、森吉会として帰ってくることにした。少しでも皆さんのお役に立てればと思う」とあいさつしました。

地元自治会長からは「人口減少が進み、住民の共同作業で守ってきた集落の神社や自治会館を守っていくことも難しくなっている」と地域の現状を話しました。参加者からは「移住体験用住宅をもっと整備してほしい」、「若い人が移住する条件は働き口しかないのに手に職を持った人や起業・農業希望者しか移住できない。この点を踏まえた企業誘致を進めるべき」との提言がありました。それぞれ立場で、ふるさとのためにできることを考え、北秋田市が発展するよう意見を交換しました。

バター餅の味や出来栄を競う

第5回「B.M.1 グランプリ」ふるさと自慢



▲一次審査では、来場者も一般審査員として味や出来栄などを審査

森吉山麓村おこし会(池田文明会長)主催の『第5回B.M.1 グランプリ』が、4月28日にクウインズ森吉で開催され、バター餅の味や出来栄を競い合いました。B.M.1グランプリは、販売用のバター餅を製造していない個人と団体を対象としたもので、従来の伝統的なバター餅の製法を基本とするクラシカル部門に5品、しそやブルーベリーなどの素材を加えたアレンジ部門には13品が出品されました。

はじめに、池田会長が「爆発的な人気となったバター餅だが、最近では地域で類似品も出回っている。北秋田発祥のバター餅の存続へ全力で頑張っていきたい。地元の味を守るため厳正な審査をお願いします」とあいさつを述べました。次に、来賓を代表して津谷市長が「ブームを一過性にしたい」と「バター餅の里」宣言を行い、商標登録もしている。地域の宝である北あきたバター餅をしっかりと守り、広めていきたい」と祝辞を述べました。続いて、前田保育園の園児たちが「バター餅もつち」が、元気に「バター餅体操」を披露。園児たちが愛らしく踊る姿に会場は盛り上がり、審査では、審査員が一品ずつ『風味』や『食感』を確かめながら試食するとともに、さまざまな趣向を凝らしたバター餅の出来栄を楽しんでいました。また、合間には、出品者へのインタビューが行われ、独自に工夫した点や婦人部が集まって楽しく作った経緯などを語りました。最後に、部門ごとに各賞が発表され、クラシカル部門では前田駅前婦人部(石川千恵子代表)、アレンジ部門では佐藤絹子さん(脇神)が、それぞれグランプリに輝きました。